

### G.B.VICO高校(小・中併設)訪問

ホストファミリーの学生たちが通うキエーティ市内の高校です。派遣中学生たちは、博物館で発掘調査の体験をしたり英語やラテン語の授業を受けたりして、日本の学校との違いを肌で感じました。



### ホストファミリーとの交流

派遣中学生は、キエーティ市内などのホストファミリーの家庭で3泊4日のホームステイを体験しました。片言の英語やイタリア語でコミュニケーションをとりながら、それぞれの家庭で過ごし、最終日には、ホストファミリーと生徒たちは、涙を流し抱き合って別れを惜しましました。

### 令和遣欧少年使節 派遣報告

帰国後、それぞれの中学校で今回の海外派遣で学んだことや感じたことについての報告会の実施や、1月12日には、ありえコレジヨホールで開催される世界遺産登録1周年を記念したシンポジウムで派遣報告を行います。

## 友好都市キエーティ市との交流

### キエーティ市訪問

平成28年11月に友好都市となったキエーティ市は、ローマ市からバスで約3時間の標高330mの位置にあります。キエーティ市長を表敬訪問し、今後の交流について意見交換を行いました。



1 表敬訪問(キエーティ市役所市長室にて)  
2・3 日本・イン・アブルッツォ協会との交流



### 日本・イン・アブルッツォ協会との交流会

アブルッツォ州で日本の文化や風習などに触れ交流を行っている日本・イン・アブルッツォ協会の主催による交流会が開催されました。派遣中学生たちはホストファミリーと一緒に参加し、歌を歌ったり、折り紙をしたりして交流を深めました。



## 特集

# 令和遣欧少年使節海外派遣事業

～400年前、少年使節団が巡ったイタリアの地へ～

## 天正遣欧少年使節ゆかりの地へ



コロッセオ前



サンタ・マリア・デル・オルト教会

### ローマ・バチカン市国

天正遣欧少年使節が訪れた場所を中心に、ローマ市内とバチカン市国の各所を視察。当時の建物もそのまま残っており、時を超えて少年使節が見た同じ建物や天井画を見学していた中学生は「まるでタイムスリップしたような感覚になる」と話していました。

### ローマ教皇謁見

当時の少年たちと同じ袴・袴でバチカン市国内にあるサン・ピエトロ大聖堂前の広場で謁見に臨みました。派遣団員には特別席が準備されており、最前列でローマ教皇と言葉を交わしたり握手をするなど、貴重な経験をしました。



ローマ教皇と握手

令和元年10月18日から26日までの9日間、令和遣欧少年使節団として4人の中学生をイタリアへ派遣しました。  
これは、1582年にキリシタン大名の名代としてローマを目指し、ヨーロッパへ渡った天正遣欧少年使節の偉大な功績を顕彰すると共に、歴史を通して郷土に誇りを持つグローバルな人材育成を目的に派遣しているもので、今回で8回目となりました。  
また、派遣期間中、本市の友好都市であり、「有馬のセミナリヨ」を創設したアレッサンドロ・ヴァリニャーノ巡察師の出身地であるキエーティ市にも滞在しました。

※派遣された中学生の感想文を市ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。【イタリア派遣中学生】



はやしだ めい  
林田 芽依さん  
(加津佐中学校2年)

私のホストファミリーはアリチェという16歳の女の子でした。私が帰り支度で荷物をまとめている時に「メイと出会えて良かった。あなたは私たち家族にとって星のような存在だよ」とアリチェが涙を流して言ってくれました。家族にも3日間本当に良くしてもらって、私の人生の中で最高の思い出となりました。ホームステイに行って感じた事は、たとえ言葉が通じなくても心は通じ合えるということです。私はこの派遣事業を通して「南島原に生まれて良かった」と感じると共に、セミナーヨが設立された歴史ある南島原を誇りに思うようになりました。



みぞた かいと  
溝田 魁都さん  
(北有馬中学校2年)

ローマ市内の観光は心に残るものでした。建物の壁を彫って模様を作るなど雰囲気は日本とは全く違いました。自分が四少年と同じ経験をしていると思い感動しました。ローマ教皇謁見では、私たちは袴袴に着替えて、しかも最前列での謁見でした。私は英語で「この経験を一生の宝物にします」と伝えました。すると笑顔で握手をしてくださいました。まるで夢のようでした。四少年と同じ経験ができたこと、このような機会を頂けたことを誇りに思います。私はこの経験を活かし、学んだことをどんどん発信していきたいです。



ながた はづき  
永田 葉結希さん  
(西有家中学校3年)

イタリアの学校ではギリシャ語やラテン語、英語の授業を受け、私が一番楽しかった授業は体育です。また博物館で課外授業をしました。他にもおやつを食べる時間があってパンを買いみんなで食べました。日本とは違う自由な学校スタイルに戸惑っていましたが、勇気を出して積極的にコミュニケーションをとるように頑張りました。クラスの人々と連絡先を交換し、日本に帰ってきてからも交流を続けており、大切な友人となりました。この事業に参加し、何事にもはじめは小さな勇気があるけれど、行動することで大きな何かを得られることを学びました。



みなわ りき  
三縄 梨貴さん  
(有家中学校3年)

ホームステイの最後の食事、僕は素麺を作りました。みんな「おいしい」と言ってくれてとても嬉しかったです。言葉を交わさなくても伝わる何かをここで見つけた気がしました。とても短い時間でしたが、僕を受け入れてくれたイタリアの家族の愛情を思うと熱くて大きな何かがこみ上げてきました。この時流した涙は一生忘れません。今度は僕が多くの人達にこの事を伝える番です。日本とイタリア、南島原市とキエーティ、その架け橋となる事ができると思います。僕にとって仲間と共に過ごした九日間は、僕の人生を変えた一生の宝物です。